中央農業改良
普及センター
県域普及グループ

# りんどう、小ぎくを主体とした花き産地の強化

活動期間：平成27～30年度

〇りんどう、小ぎくともに、栽培面積、生産額が減少傾向にある。平均単収も低迷しており、**新しく育成された品種の普及（りんどう）や単収向上策の検討が課題である**。

〇早期作付推進のため、りんどうでは、新品種の現地適応性把握のための実証圃を設置したほか**単収確保・省力化に向けた技術（収穫後ジベレリン処理、キク開花調節、新肥料）を導入、検討している。**

〇減収要因、単収向上要因を現地生産者の管理方法等をもとに検討し、管理上の重点支援項目の設定と周知、実施誘導を行う。

## 普及活動の成果

1　新品種の現地適応性の把握と作付推進

■7品種（系統）の開花期・品種特性、現地適応性を把握

■早生種(EB-1,2号）晩生種（いわて夢のぞみ）の作付推進

県内産地への導入面積(ha)

| | | H27 | H28 | H29 | H30 |
|---|---|---|---|---|---|
| りんどう新品種作付のべ面積 | 目標 | 2.0 | 6.0 | 8.0 | 12.0 |
| | 実績 | 2.0 | 4.7 | 集計中 | ― |

2　新品種の特性にあった栽培法の確立

■適正株仕立て本数現地実証

主要4系統の立茎数の相違による切花品質、規格別割合等を把握。適正株数把握のためには、今後も継続して調査し、収益性を含めた総合的判断が必要。

3　産地の現状分析と支援の重点化

■管内小ぎく産地の栽培管理上の減収要因を分析し、以下のような共通項目を確認し生産者に周知。

・排水性不良
・定植後の活着不良
・生育中のかん水不足
・エテホン等の開花調節剤の不使用
・親株の不特定　など

4　りんどう・小ぎくの生産性向上支援

| | | H27 | H28 | H29 | H30 |
|---|---|---|---|---|---|
| 新技術導入産地数 | 目標 | ― | ― | 5 | 8 |
| | 実績 | ― | ― | 集計中 | ― |

## 普及活動の特徴

■各地域で抱えている課題について整理し、共通課題について全県で情報共有しながら効率的に課題解決を図ることができるよう計画。

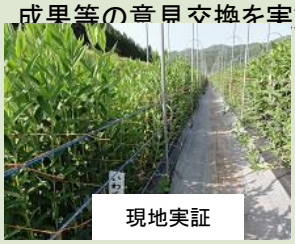
■県域グループは、各地域の実証支援のほか、共通課題は地域間連携が取れるよう調査研究活動テーマに設定し、活動をコーディネートし、実証成果は実績検討会を開催し全県に速やかに伝達。

## 主な活動内容

1　新品種の現地適応性の把握と作付推進

■りんどう新品種、有望系統の展示圃を県内各産地に設置し、生育特性、開花時期等を確認。

■現地検討会等を開催し、普及員、JA指導者等間で実証成果等の意見交換を実施。


現地実証

現地検討会

2　新品種の特性にあった栽培法の確立

■現地実証における生育特性等にもとづく栽培管理方法の検討

■仕立て本数の相違が、規格割合、単収向上におよぼす影響等を確認

3　産地の現状分析と支援の重点化

■アンケート実施による栽培管理状況の把握および単収向上要因の分析（りんどう、小ぎく）

■産地、生産部会等の現状について、生産者、関係機関への聞き取り調査を地域普及センターと連携し実施

4　りんどう・小ぎくの生産性向上支援

■県内各地域でのリンドウ黒斑病の発生実態、防除実態等の把握、現地実証圃設置支援

■りんどう新肥料の肥効現地実証支援

■りんどう早生種へのジベレリン処理効果の確認

■小ぎく開花調節実証圃の設置支援

■りんどう、小ぎくの現地検討会、実績検討会の開催による生産性向上策の検討

## 関係機関との連携

■園芸産地戦略推進会議りんどう技術対策部会（構成員：全農いわて、JA、普及センター、県農研センター、農産園芸課の花き担当者）の活動として関係機関と連携し実施。

■県域グループは、りんどう技術対策部会のリーダーとして現地 検討会や実績検討会を開催。

■各普及センターは実証圃の設置・調査。県農研センターは現地実証へ参画し助言等を実施。